



**2019年度  
決算説明会資料  
2020年5月19日**

**株式会社UACJ**

## 1. 2019年度通期業績

## 2. 2020年度の対応方針

## 3. 新型コロナウイルスの影響と対応

## 4. 構造改革の進捗

# 1. 2019年度通期業績

**経常利益 38**億円（前年度比 24億円減）

## ■ 数量：前年度比増

- ・UATH<sup>\*1</sup>（タイ）、TAA<sup>\*2</sup>（米国）の缶材が増加
- ・自動車向けが増加

## ■ 経常利益：前年度比 24億円（38.9%）減

### ◎ 増益要因

- ・CUA<sup>\*3</sup>合併解消による  
持分法損益の改善
- ・TAA業績改善  
(販売増/コストダウン効果)
- ・UATH業績改善

### △ 減益要因

- ・棚卸評価関係による減益
- ・経営環境悪化による販売減  
(米中貿易摩擦/国内事業環境)

**年間配当 20**円／株を予定

# 2019年度 通期業績



(単位：億円)

	2018年度 (A)	2019年度 (B)	増減 (B) - (A)
連結売上高	6,613	<b>6,151</b>	△462
連結営業利益	149	<b>101</b>	△48
棚卸影響前 連結経常利益	30	<b>98</b>	68
棚卸影響額	32	△60	△92
連結経常利益	62	<b>38</b>	△24
連結当期純利益	11	<b>20</b>	9
Adjusted EBITDA	426	<b>473</b>	47

※ 連結当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益  
 ※ Adjusted EBITDA：EBITDA - 棚卸評価関係

	2019年度
構造改革損失	△10
関係会社株式等評価損	△53
投資有価証券売却益	20
その他の	△11
計	△54
法人税等	46

※当第3四半期連結決算において、当社100%子会社であるUACJ Australia Pty.Ltd.が保有しているBoyne Smelters Ltd.の株式および同社に対する貸付金に係る評価を見直した結果、将来の回収可能性を見込むことが困難であることから、約53億円の関係会社株式等評価損を計上しました。また、それに伴う税効果会計の適用により繰延税金資産を計上しています。

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

	2018年度 (A)		2019年度 (B)		増減 (B) - (A)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
アルミ圧延品	5,307	170	<b>5,038</b>	<b>125</b>	△269	△45
伸銅品	475	17	<b>229</b>	<b>4</b>	△246	△14
加工品・関連事業	1,971	31	<b>1,888</b>	<b>31</b>	△83	0
(調整額)	△1,140	△70	<b>△1,003</b>	<b>△59</b>	136	11
合計	6,613	149	<b>6,151</b>	<b>101</b>	△462	△47

# アルミ板 品種別売上数量

(単位:千トン)

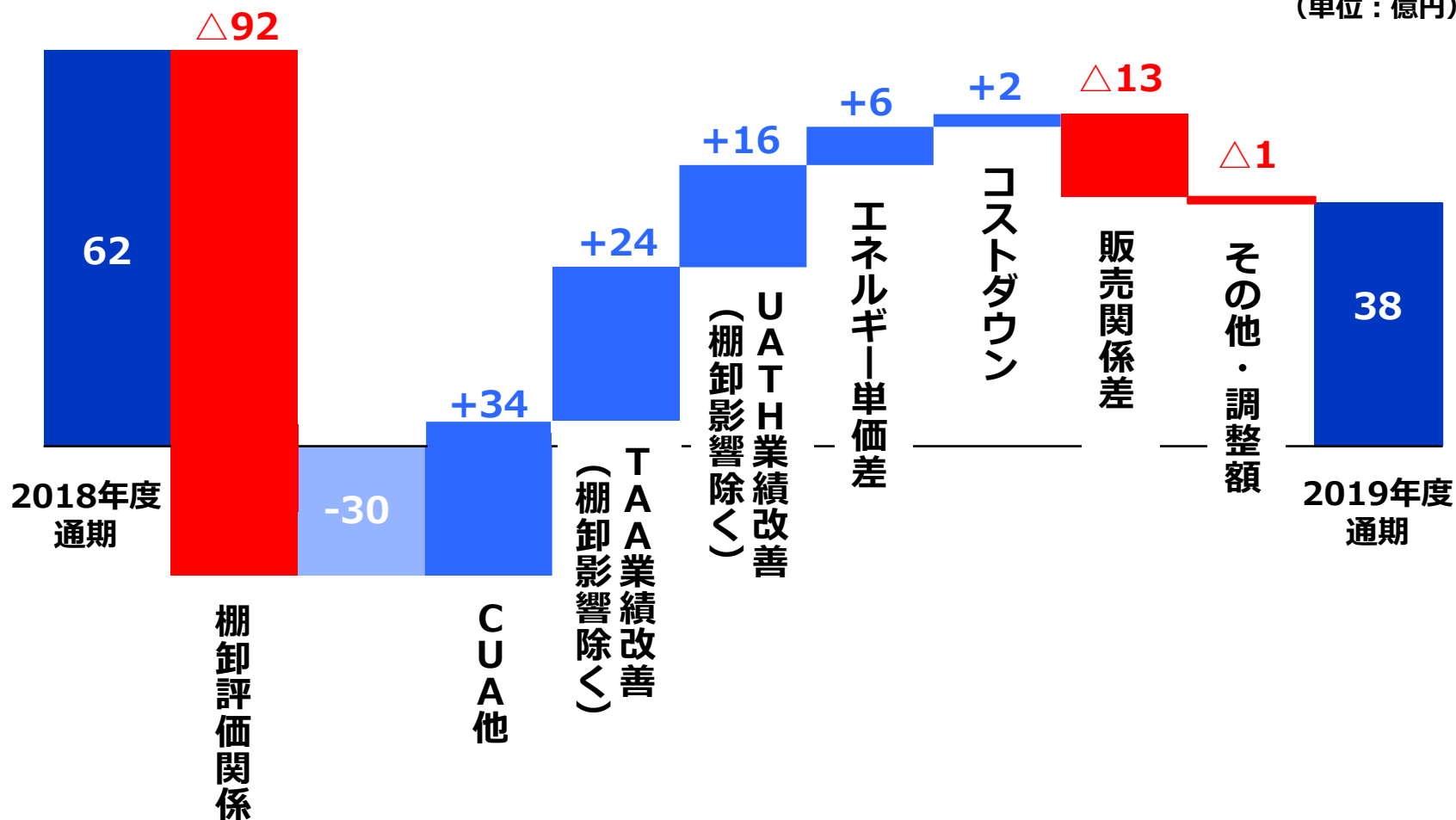
品 種	2018年度 (A)	2019年度 (B)	増 減 (B) - (A)
缶 材	666	<b>702</b>	37
箔 地	50	<b>44</b>	△6
I T 材	15	<b>17</b>	1
自 動 車 材	147	<b>152</b>	4
厚 板	40	<b>39</b>	△1
その他一般材	177	<b>199</b>	22
合 計	1,094	<b>1,153</b>	59
	〔 国内市場向け 504 海外市場向け 590 〕	〔 国内市場向け 483 海外市場向け 669 〕	〔 △21 79 〕



# 連結経常損益分析 (2018年度 → 2019年度)

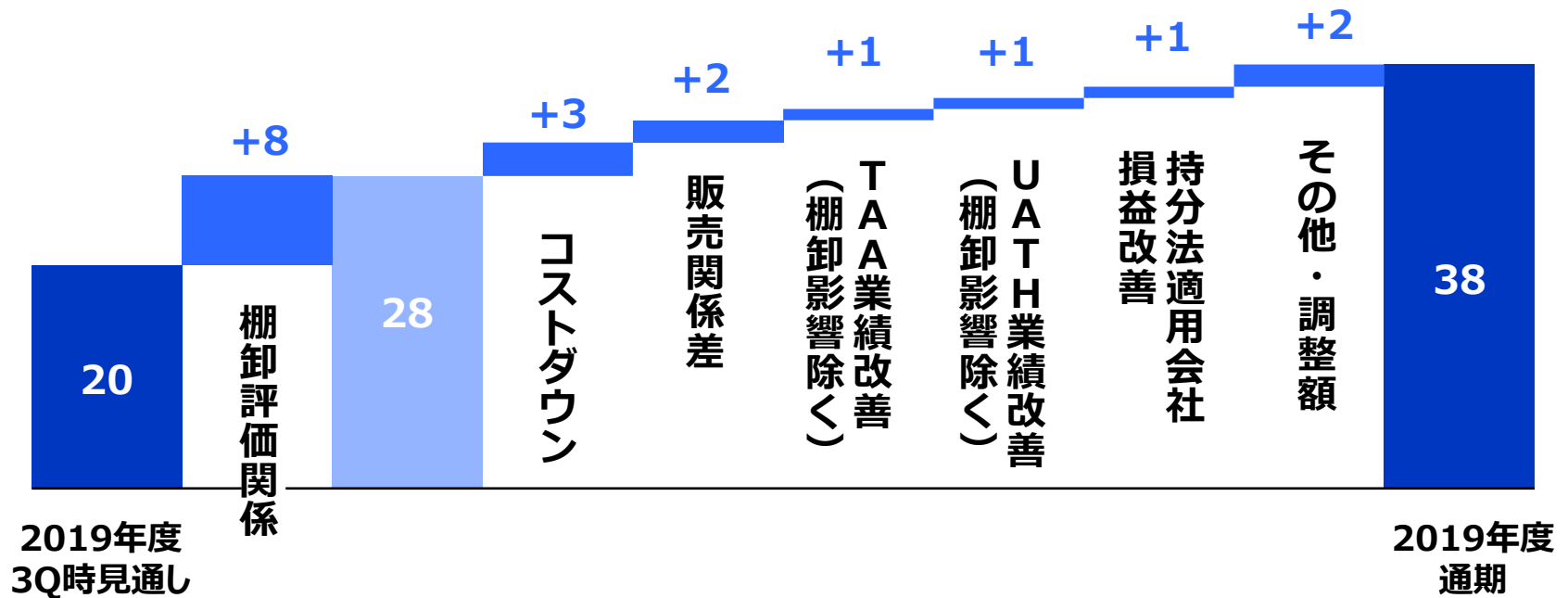
62億円 (2018年度) → 38億円 (2019年度)

(単位：億円)



20億円 (2019年度 3Q時見通し) → 38億円 (2019年度)

(単位：億円)



## 2019年度はフリーキャッシュフロー黒字化、有利子負債の大幅削減を実現

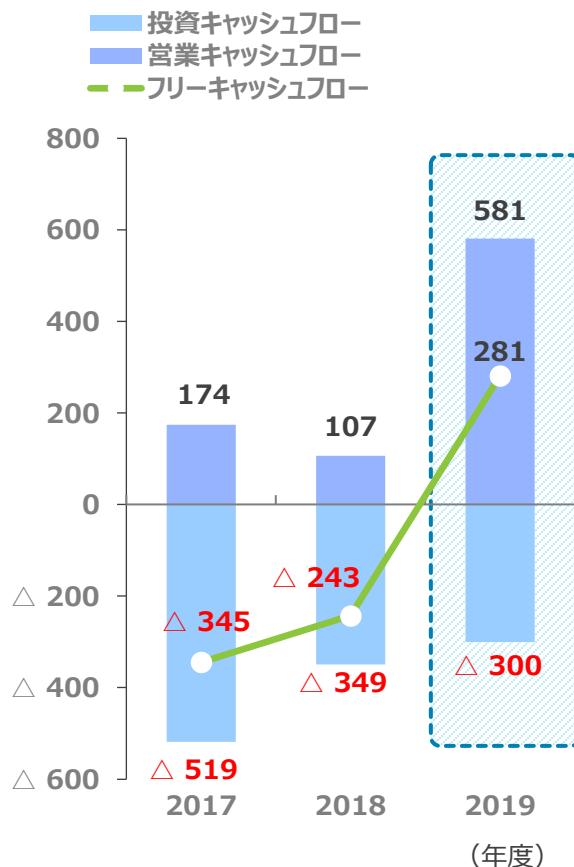
### 2019年度 連結キャッシュフロー

(単位：億円)

税引前利益	△ 16.2
関係会社株式等評価損	53.3
減価償却費 (のれん含む)	312.0
棚卸資産増減	79.3
債権債務他	175.4
法人税等	△ 22.7
<b>営業C F計</b>	<b>581.1</b>
設備投資	△ 533.7
銅管売却	213.4
その他投資C F	20.0
<b>フリーC F</b>	<b>280.9</b>
配当	△ 28.9
その他財務C F等	32.8
現預金増減	25.9
<b>有利子負債の返済</b>	<b>△ 310.7</b>

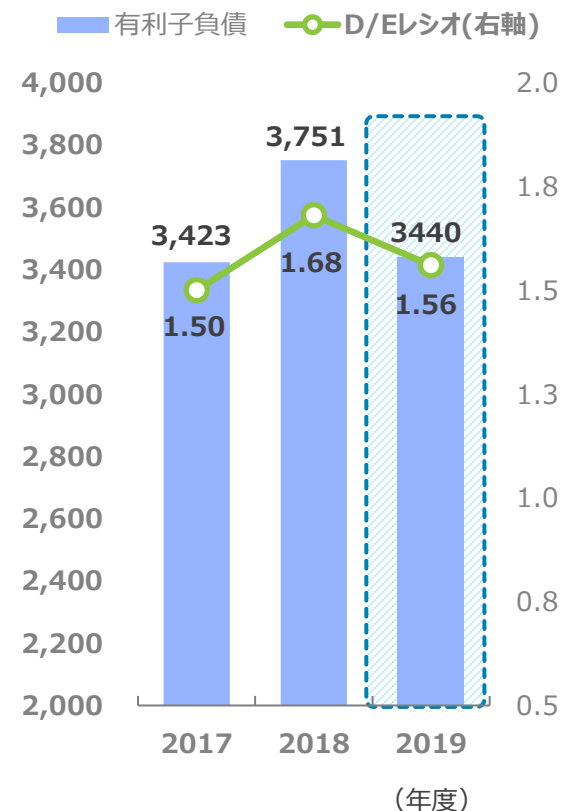
### 連結キャッシュフロー

(単位：億円)



### 有利子負債残高・D/Eレシオ

(単位：億円)



19年度で戦略投資は一巡し、20年度より設備投資は大幅減

(単位：億円)

		2019年度
設備投資	一般投資	143
	戦略投資	347
	合計	489
減価償却費		312
戦略投融资		6

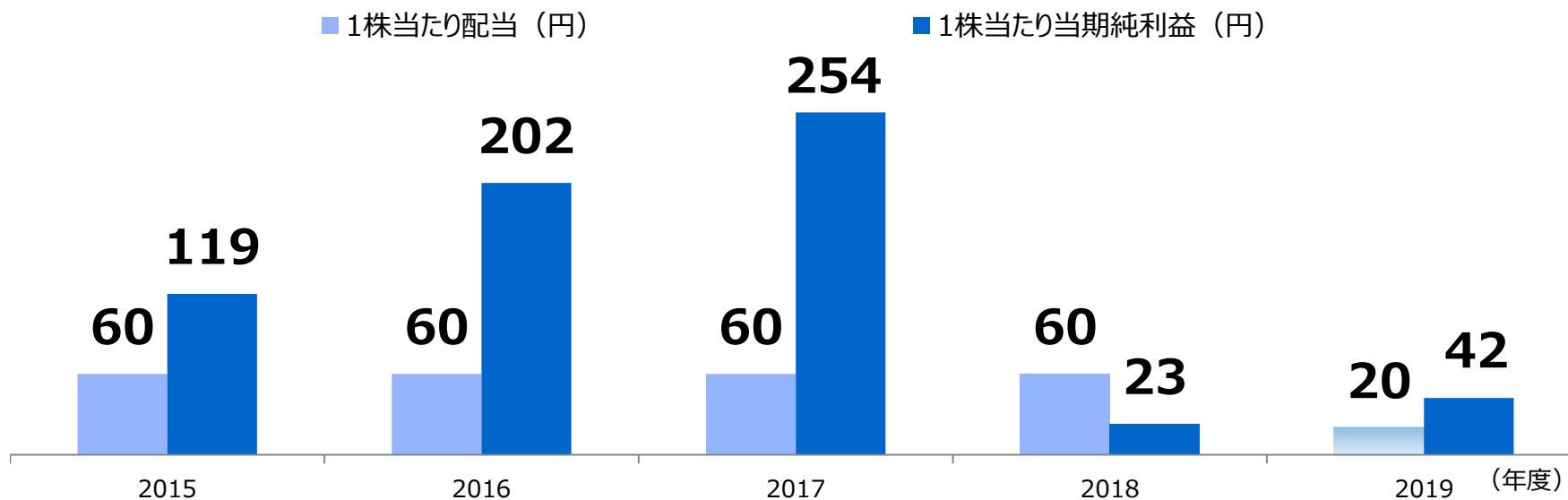
## 純利益の増加に伴いROEは改善

	2019/3末	2020/3末
自己資本（億円）	1,910	<b>1,884</b>
自己資本比率（%）	23.7	<b>25.0</b>
有利子負債（億円）	3,751	<b>3,440</b>
D/Eレシオ*（倍）	1.68	<b>1.56</b>
R O E（%）	0.6	<b>1.1</b>

\* 劣後ローンの資本性考慮後

2019年度の配当については、当期業績をふまえ、20円とする

1株当たり配当/1株当たり当期純利益\*1（円）



## 役員報酬制度の改定

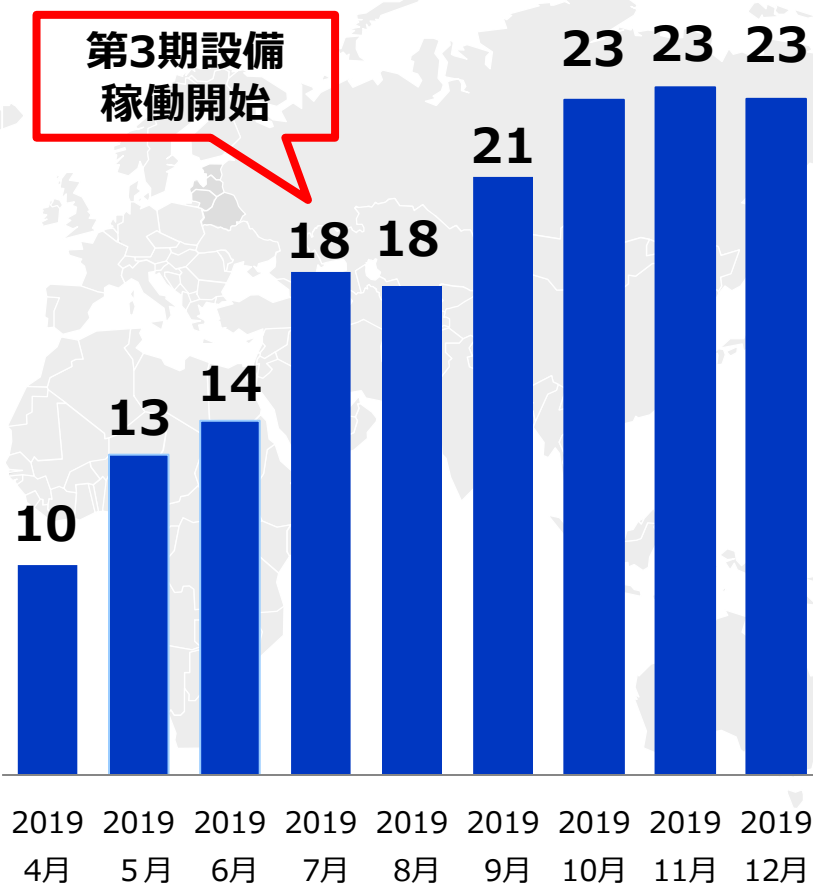
- 社内取締役および執行役員の中長期連動報酬の評価指標として導入済の「連結ROIC」、「連結 Adjusted EBITADA」に加え、新たに相対TSR\*2を追加採用

\*1 株式併合後換算で表記

\*2 TSR: Total Shareholder's Return: キャピタルゲインと配当を組み合わせた、株主にとっての総合投資利回り

## 第3期設備が稼働し、月産2万トン体制確立（4Q：営業黒字達成）

UATH 月次生産量（単位：千t）



### 年間統括

- ・缶材需要：アジア地域を中心に堅調
- ・生産量：約203千t/年
- ・販売量：約200千t/年
- ・損益：想定通り進捗  
+

### 操業面での現地化が加速



## 2. 2020年度の対応方針



## 足元経営環境認識

- 日本： 国内経済活動が大幅に縮小されており、自動車・機械向けを中心に需要が鈍化
- 北米： 生活必需品である缶材は堅調も、自動車用部材は経済活動規制の影響を受ける
- アジア： 飲食店、小売店を営業停止にしている国も多く、缶材を中心に足元の需要が鈍化

## 地域別主要品種の経営環境認識

- 日本：
  - 缶材： イベント中止や外出自粛の影響があるものの、底堅い需要
  - 自動車： グローバルでの経済活動規制の影響を受ける
  - IT材： 在宅・テレワーク需要増加によるIT関連製品の需要増に期待も不透明感が強い
  - 厚板： 液晶・半導体向けは5G関連の需要が上向きも本格回復には時間を要する
- 北米：
  - 缶材： 生活必需品であると同時に、脱プラスチックの影響もあり、アルミ缶の需要は旺盛
  - 自動車： 経済活動規制の影響を受ける
- アジア：
  - 缶材： 各国での飲食店、小売店停止の影響を受ける
  - 熱交材： グローバルでの自動車販売低迷の影響が出始めている

## 2020年度 業績見通し

2020年度の通期業績見通しについて、新型コロナウイルス感染拡大の影響により今後の需要産業の動向が不透明であることから、現時点で合理的な予想の算定が困難であるため、未定としております。

## 配当

通期業績見通し未定に伴い、配当につきましても未定といたします。

## 3. 新型コロナウイルスの影響と対応

## 受注環境は不透明感増すも、グローバル主要拠点は稼働を継続中

### 受注動向、マーケット状況

顧客との直接営業活動が制限される中、テレワークの活用で最新情報入手に注力も先行きは不透明  
各国行政指導に基づく課題にも柔軟に対応し、顧客・取引先の動きをサポート

- 缶材等生活必需品関連：4月までは影響軽微。5月連休の移動減少の影響注視
- 自動車関連：OEM操業停止にあわせ、5月以降一時的に需要停滞。生産調整
- 電子関連：中国内操業停止のBCP対応で一時的な生産増も想定
- 医療関連等：感染防止、医療体制維持に必要な要請は、最優先で対応

### 主要拠点の稼働状況

日本	名古屋・福井・深谷はじめ製造ラインは、受注減に応じ、一部設備で数日間の操業調整を実施。基本は、通常通り操業継続
北米	TAA：操業継続中 UWH*：行政指示に従い3月末からライン停止 5月18日より操業再開。他所も行政指示・要請を踏まえて対応中
タイ	UATH：操業継続。他地域との人的移動も原則行わず感染防止に最大限配慮 押出等：自動車関連等で一部操業調整
中国	足元は各拠点とも操業中
東南アジア（除タイ）	足元は各拠点とも操業中

資金調達に万全を期し、必要金額を確保。徹底した感染防止対策をグローバルで実施

## 資金調達

- ① 手元資金残高： 2019年12月末 195億円 → 2020年3月末 287億円
- ② 20年4、5月で新型コロナ対策資金として追加で約300億円を調達
- ③ 金融機関との間で、430億円のコミットメントライン（即時融資枠）を設定済み

## 感染予防・感染拡大防止対策への対応

- 生活必需品の缶材を中心に感染対策を徹底しながら生産を継続。
- 国・地方自治体などの指導・要請への協力をベースに、感染防止を第一に、グループ全体として慎重に経営判断を行う。製造所内感染を想定した生産代替プランも並行して検討中

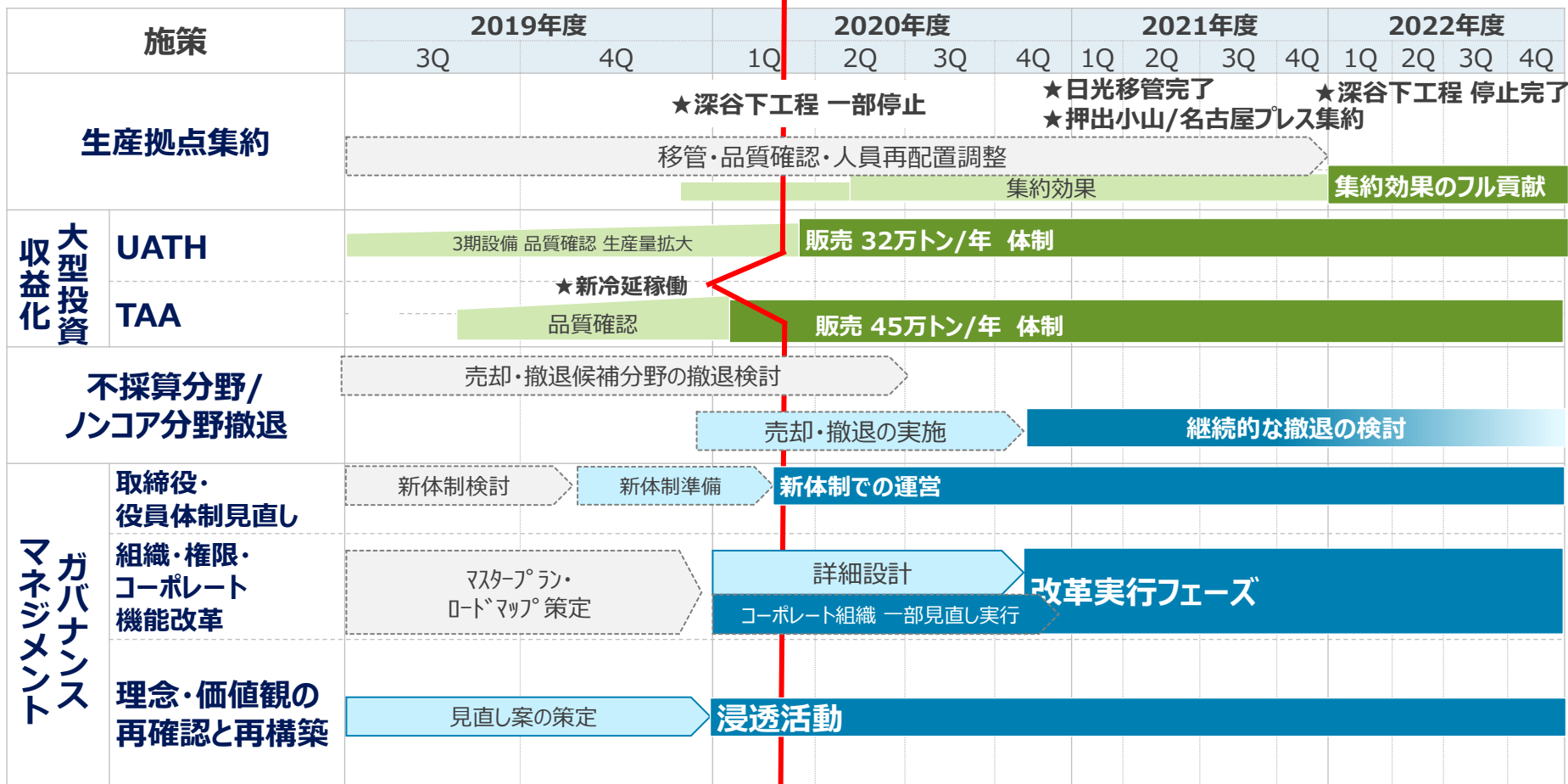
- ① スタッフ部門：原則在宅勤務（テレワーク） → 8割以上が在宅勤務  
生産に関わる生産・整備部門：行政要請をベースに感染対応を徹底しながら生産を継続
- ② 当社主催行事は当面見合わせ、国内外の出張は原則禁止。Web会議・ICTツールを活用
- ③ 海外赴任者等に対しては、赴任国の指示をベースに、赴任地域の感染状況・医療状況をふまえ対応

## 4. 構造改革の進捗

## 構造改革の各施策はロードマップに沿って計画通りに進捗

### 概ね計画通り進捗

稼ぐ力の向上/財務体質の改善/経営のスピードと質の向上



## 深谷製造所下工程停止、日光製造所の閉鎖は計画通り進捗

### 方針

生産拠点の集約化による  
固定費削減・稼働率向上

### 施策

深谷製造所下工程停止  
→名古屋・福井へ集約

日光製造所閉鎖  
→自動車熱交材のUMP\*への集約

押出小山/名古屋  
→プレス集約と最適化

### 進捗

下工程の一部を予定通り停止  
(一部停止: 2019年4Q / 停止完了: 2021年4Q)

従業員の配置転換・人事異動について労使間で合意  
自動車熱交材のUMPへの集約に向けて顧客と協議中  
(移管完了: 2020年4Q)

名古屋製作所に最新鋭プレスを設置  
→旧型プレスを停止し、生産の集約を開始

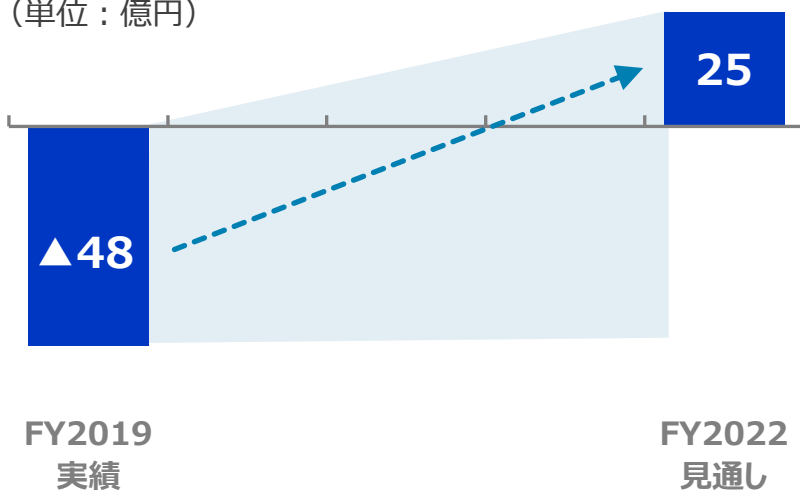


## 第3期投資設備が稼働し、販売量拡大・コスト削減が加速

### 重点施策/経常損益見通し (棚卸評価除き)

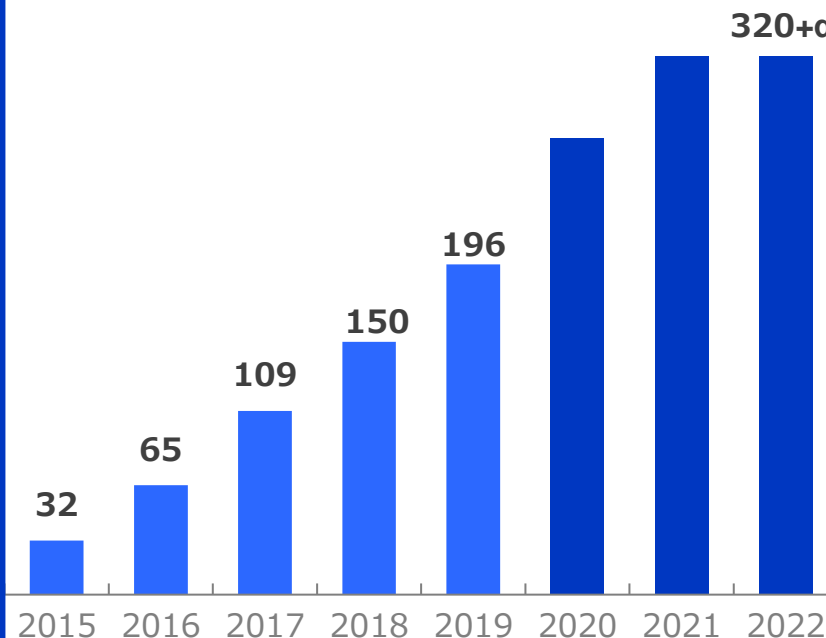
- 第3期設備の本格稼働による販売増
- 直販機能強化による新規顧客獲得と価格改定
- 長期契約の獲得と販売地域の拡大
- 増産効果によるコスト削減

(単位：億円)



### UATH 年間販売見通し

年間販売数量 (単位：千トン)

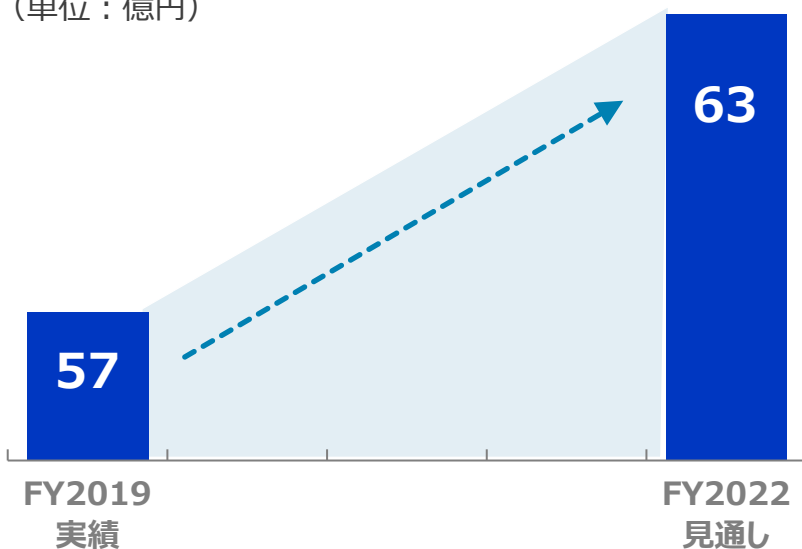


缶材需要旺盛の中、販売量拡大・価格改定・コストダウンにより増益を実現

## 重点施策/経常損益見通し (棚卸評価除き)

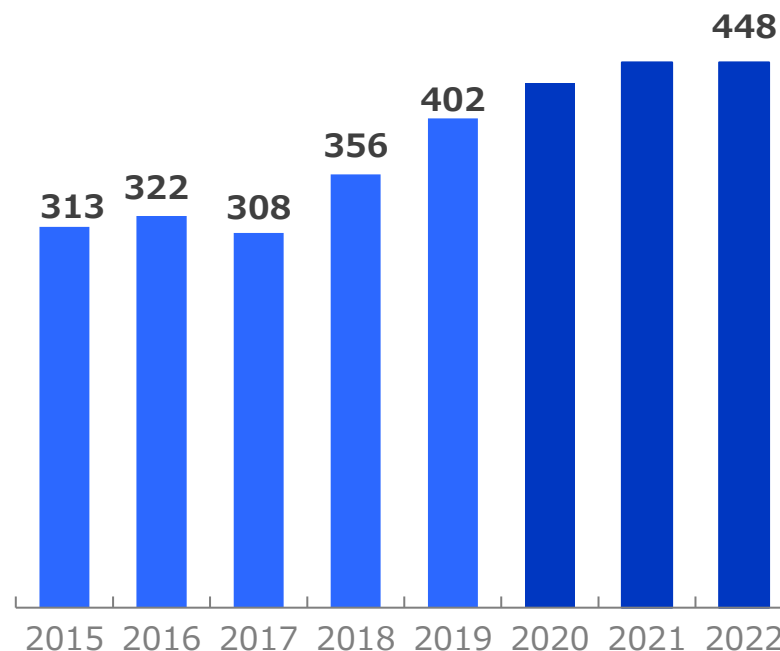
- 増産投資完了による販売量増加
- 長期契約更新による数量確保と価格改定
- スクラップの活用による製造コストの削減

(単位：億円)



## TAA 年間販売見通し

販売量推移見通し (単位：千トン)



国内・海外共に不採算分野/ノンコア分野の是正・撤退を加速

方針

低採算分野の是正・撤退

エリア

進捗

国内事業



UACJ金属加工 深谷工場を閉鎖（5月）

海外事業



・インドネシア押出合弁事業を解消（6月）  
・タイ加工品事業：60名削減継続

取締役、執行役員の人数を削減し、意思決定のスピード向上、組織強化を図る

## 現行体制

執行役員 27名

社内取締役 8名  
(執行役員と兼務)

社外取締役 4名

## 新体制

14名

6名

4名

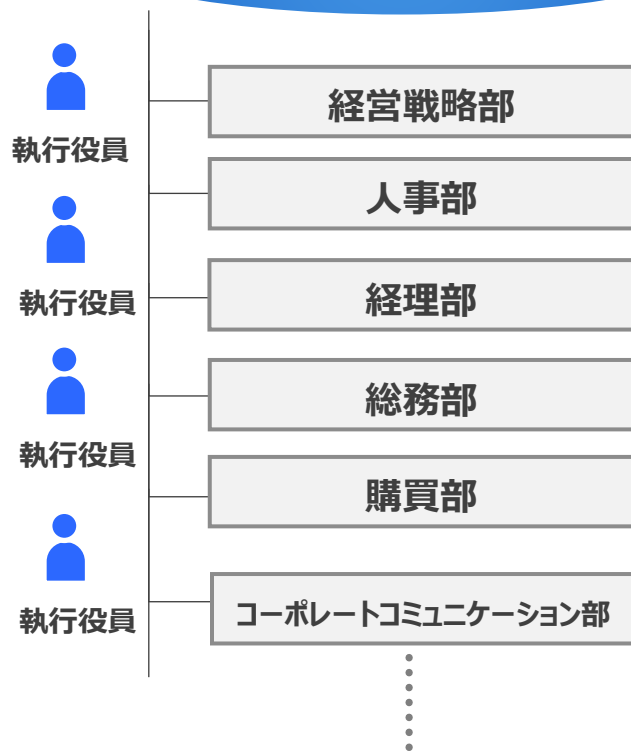
責任・権限の明確化

意思決定のスピード向上

## コーポレート組織体系を見直し、構造改革の実現に向けグループガバナンスを強化

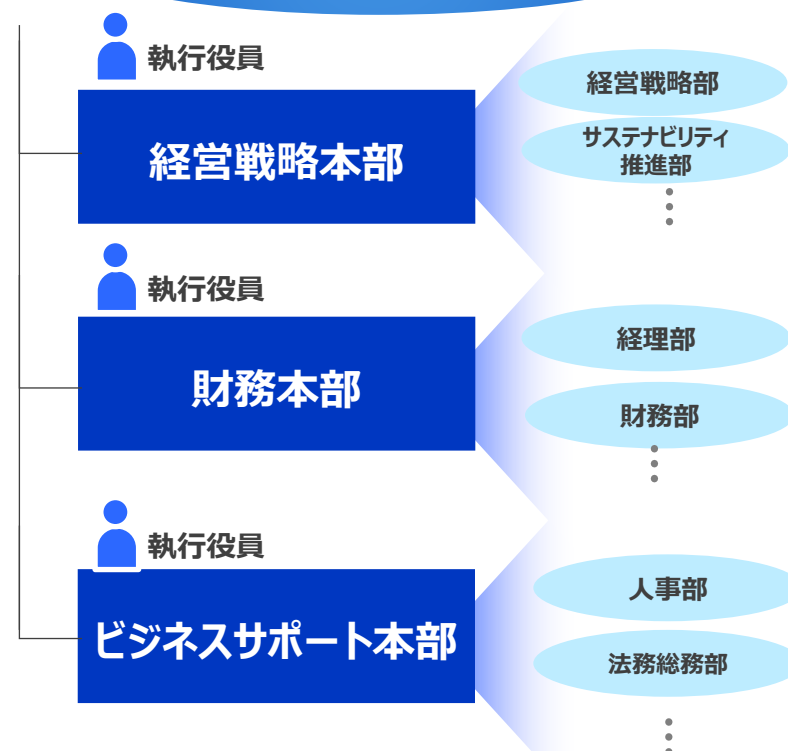
### 現行組織体制

18の部門が存在し、  
組織間連携に課題



### 新組織体制

組織毎の機能を明確化・スリム化  
社会ニーズに沿った新部署を設置



存在意義から見つめ直し、若手から経営陣までの参加型でUACJらしい理念を再定義



## 企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

## 目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

## 価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

新・企業理念体系に基づき、企業風土・文化をUACJらしくする

# 【東日本大震災復興支援】 イシノマキ・ファームとのホップ栽培

ホップ栽培を通じて、本取組みを支援し、CSR活動の社会貢献活動を推進していく



「農を通して地域、社会、そして自然とつながる」がコンセプト



農業の魅力を通じて、農業従事者の高齢化や、耕作放棄地増加、引きこもりの問題を解決する地域貢献を行う

## 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは、今後さまざまな要因によりこれらの業績見通しとは大きく異なる場合があり、確約や保証を与えるものではないことをご承知おきください。また、本資料は投資勧誘の目的のための資料ではありません。

## 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、株式会社UACJに帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

本資料ならびに I R 関係の問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

コーポレートコミュニケーション部 TEL : 03-6202-2654 FAX : 03-6202-2021

URL : <http://www.uacj.co.jp>

(東証1部 コード番号 : 5741)